

阿波おどり事業検証結果についての提言書 概要

項目	概要
1～3	中間報告と同じ
4 運営体制等について	<p>(1) 評価機関の常設</p> <p>ア 事業を評価し、阿波おどりをより良くしていくため、外部の視点で客観的に評価できる機関を常設する必要がある。</p> <p>(2) 行政（市）の関わり</p> <p>ア 阿波おどりは、地域の伝統文化、祭りであり、さらに、興行性の高い一面があることから、市が中心的に関与することは避けるべき。</p> <p>イ 他の祭りを参考に、NPOや商工団体が中心になるべき。</p> <p>ウ 公益性の高いわか連やシャトルバスに対する支援は行政本来の役割であり継続する。</p> <p>(3) 民間委託による阿波おどり事業の実施</p> <p>① 民間委託導入の必要性</p> <p>ア 阿波おどり事業が赤字になった場合に税金で補てんするような仕組みは避けるべき。</p> <p>イ 民間のアイデアやノウハウを活用することで、阿波おどり事業を健全かつ持続的に実施するとともに、収支の責任を明確にするため、民間委託を導入する必要がある。</p> <p>② 民間委託の導入方法</p> <p>ア 事業期間を3年～5年とし、コンペ方式で決定する。</p> <p>イ 収益の一部を基金に積み立てる仕組みを構築することで、計画的な栈敷改修や、市民への還元を図る。</p> <p>③ 導入にあたっての課題</p> <p>ア 実行委員会が事業をコントロールするため、事業者に対して、資料を求めた場合の迅速な対応や、速やかな決算状況の報告義務を課す。</p> <p>イ 地域の伝統文化である阿波おどりを地域のものとして継承していくため、実行委員会と事業者による定期的な協議の場を設け、運営協議会の参加も考える。</p>

項目	概要
(4) 運営体制の課題	<p>ア 民間委託導入までの間も、阿波おどり事業の赤字を税金で補てんするような事態を避けるべき。</p> <p>イ 赤字を出さない阿波おどりの仕組みが構築できれば現在の運営体制を継続しても良いが、市に替わる事業の担い手は引き続き検討すべき。</p>
5 チケット関係	
(1) チケット料金	
① 前夜祭・選抜阿波おどり	ア 現在の有料演舞場と同程度の料金設定が適正なのかを検討することは可能である。
② 有料演舞場	ア 市役所前演舞場をプレミアム化する場合は、料金改定が可能と考える。
③ 料金改定にあたって	ア 料金改定の際は、それに見合う価値を付加することや、リピーター確保のために演出方法の違いを情報発信することが必要である。
(2) チケット販売方法	ア 発券機等を使い慣れていない方のために、対面販売も必要である。
6 出演料の廃止と参加費の創設	
(1) 自分たちで支えるという意識改革	<p>ア 地域の貴重な伝統文化である阿波おどりを継承していくためには参加者自身が自分たちで阿波おどりを支えていこうとする意識改革が必要である。</p> <p>イ そこで、全国の祭りを参考に、有名連への出演料は廃止し、おどり連からは参加費をいただくこととする。</p>
(2) 参加費の例	ア 参加費はあまり負担感のない水準にし、みんなを支えているという意識付けを行う。
(3) 出演料廃止の際の留意点	ア 有名連に対しては駐車場代や弁当代を支出するとともに、にわか連に対する運営支援は拘束時間を考えてもう少し引き上げて良い。

項目	概要
(4) 多様な財源の確保 ① 多様な財源の確保 ② 体験型阿波おどりの拡充による収入確保	ア 広く協賛金を募る仕組みを構築することで、より安定的に運営することが可能となる。 ア 見る観光から体験する観光へ移行しており、にわか連参加者にはっぴやうちわを提供することで参加意識を増加させるとともに、料金改定が可能になると考えている。
7 その他 (1) 阿波おどりの名称 (2) 演舞場張り付け方法 (3) 人出の推計方法 (4) 契約のあり方 (5) 利用者負担の適正化 (6) 積極的な広報	ア 県外でPRを行う場合は名称に「とくしま」を加えることでより認知度が高まることから、名称を使い分けることも良い。 ア 学生連などの中にはすばらしい踊りができるところもあるので、人材育成の面からも有料演舞場で優先的に踊れるよう検討する。 ア 全国の祭りの状況や経費負担の観点から、例年どおりの推計方法もやむを得ないが、客観的な数値の測定による推計方法を引き続き今後の研究課題とする。 ア 今後においても、随意契約を行う場合は法で認められた理由に照らし合わせながら契約を行うとともに、経費のかからない範囲で順次入札業務を拡大する努力を行う。 ア 無料演舞場、シャトルバス、臨時駐車場は公益性があるものの、漫然と赤字で良いのではなく、利用者負担について検討の余地がある。 ア 県内外への積極的な広報を行ない、イメージアップや集客効果の拡大に努めることが必要である。

【阿波おどり事業検証有識者会議の意見】

阿波おどりは、徳島の重要な観光資源であり、市民の生活の一部となっている伝統文化であることを、参加するすべての方々が再認識し、みんなで支え合っていくことが基本と考えている。

有識者会議では、こうしたことを踏まえ、未来にわたって阿波おどりが持続的・安定的かつ発展的に実施できるよう、今回の提言書を取りまとめた。

阿波おどり実行委員会は、今後も阿波おどりを盛況かつ未来にわたってしっかり継承できるよう、この提言書を十分に尊重し取り組んでいただくことを強く要望する。